

もの言う牧師のエッセー 第314

「臆病者と呼ばれて」

10月1日の夜、米ネバダ州ラスベガスで起こった銃乱射事件は米国史上最悪の被害となった。男が宿泊していたマンダレイベイ・ホテルの32階から付近のカントリー音楽コンサート会場「ルート91ハーベスト フェスティバル」に向けて銃を乱射し、観客ら58人が死亡、500人以上が負傷した。この時たまたまステージで歌っていたジェイソン・アルディーンさんは、観客に避難を呼びかけることもなく一目散に逃げだしたとして臆病者と非難を浴びた。「言葉にもならない。ファンたちに『逃げる』とも『伏せろ』とも言わず、臆病者のように逃げた」「ファンたちに警告もせず、ステージ上から逃げ出したことに我慢がならない」などの声がSNSで殺到。

一方で、共演者のジェイク・オーエンさんは「スタッフの誰かから『ステージを降りて走れ』と言われるまで銃撃に気づかなかったのではないか」とも。演奏中のミュージシャンは、自分たちの演奏を聴く“イヤピース”着けることが多く銃撃音に気付かなかった可能性もあるからだ。しかもバックステージには妊娠中の妻、ブリトニーさんもおり、こうした事情を知る人々からもアルディーンを擁護する声はある。

いずれにせよ、アルディーンはツアーを中止し、1週間後にラスベガスの病院を訪れ、入院している負傷者を見舞い、新たな一歩を踏み出した。病院は「彼の訪問は、あの悲劇で負傷した人々の心を癒やし、勇気づけた」と歓迎。「あの日の夜、俺たちは民主党でも共和党でもなく、白人でも黒人でも、男でも女でもなかった。みんな人間で、米国人だ。今こそ一つになって立ち上がるときだ」と語った彼は、人気番組「サタデー・ナイト・ライブ」に出演し、「I won't back down (私は逃げない)」を力強く歌い犠牲者を追悼したのだった。

自らも惨劇の只中にいた被害者にもかかわらず悪口雑言を浴びせられた彼。しかしそれに臆することなくベストを尽くそうとする姿は、今から2600年前、滅亡前夜のイスラエルで救国のために奔走した“嘆きの預言者エレミヤ”のようだ。しかし、

「私は一日中、物笑いとなり、みなが私をあざけります。」

エレミヤ書20章7節、

とあるように誰も彼を尊ぶどころか、かえって迫害し命までも狙ったが、奇しくもその姿は誰にも理解も感謝もされず十字架に向かったイエスの予告でもあった。まるで八つ当たりのような心ない非難、不条理や悪意。それが世の中だ。しかしそれで終わりではない。イエスの道を行く者は、やるべきことが多くあり、必ずそれらを成し遂げる。

2017-12-17



RJ

